

健康とくらしの調査(概要版:速報値) (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)

実施結果

■ 調査対象及び回収数

調査対象	一般高齢者、事業対象者、要支援1及び2の方
抽出方法	65歳以上(要介護1～5を除く)の市民から無作為抽出 (前回調査(2022年度)の回答者を含む)
調査発送数	8,000件
回収数	5,715件
回収率	71.4% (前回比3.1ポイント増)

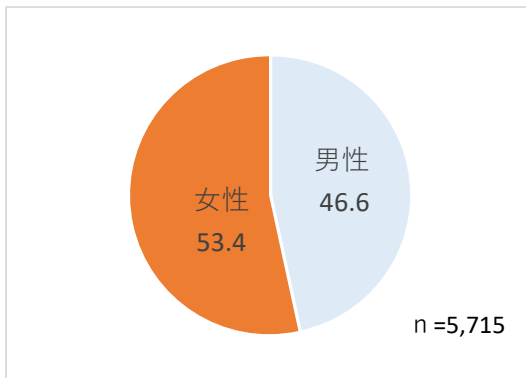
■ 調査結果の見方

- ・本文中に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り、「%」であらわしている。
- ・百分率(%)は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合がある。
- ・グラフ右下のnは、回答者数(母数)をあらわしている。

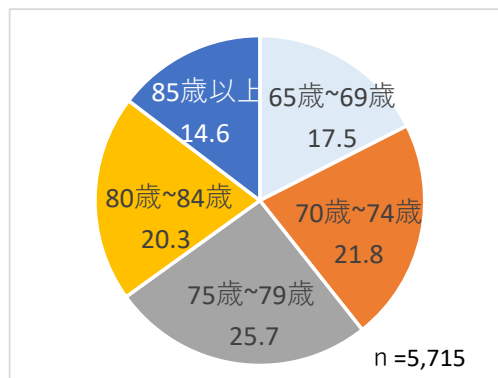
■調査結果の概要

(1) 回答者の属性 について

1) 性別

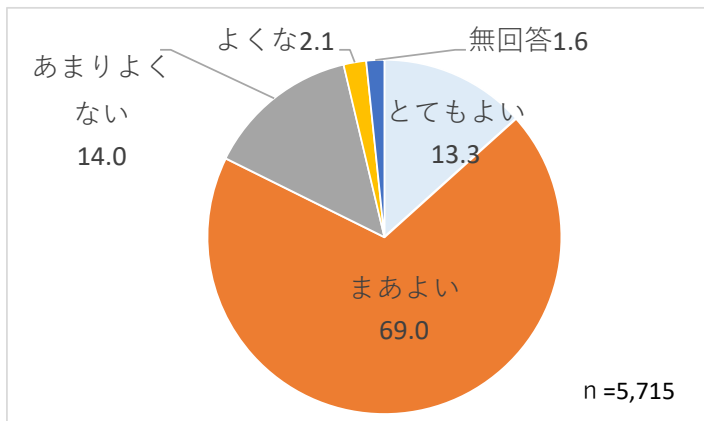


2) 年齢

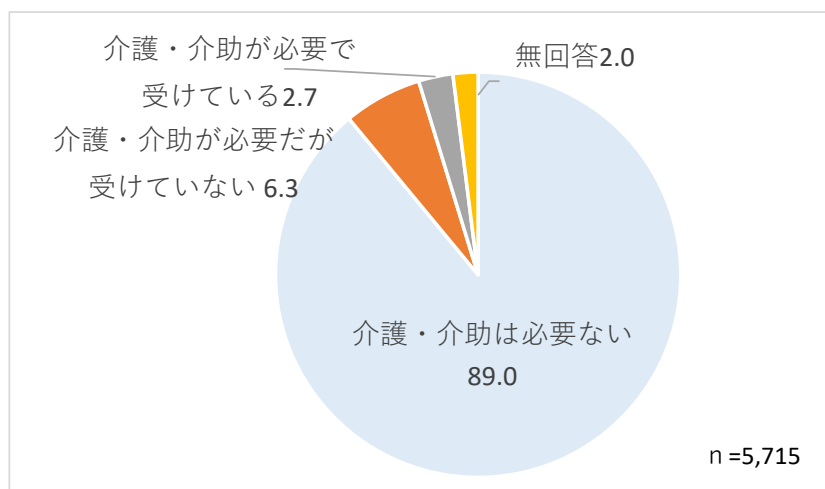


(2) 健康状態等 について

1) 健康状態

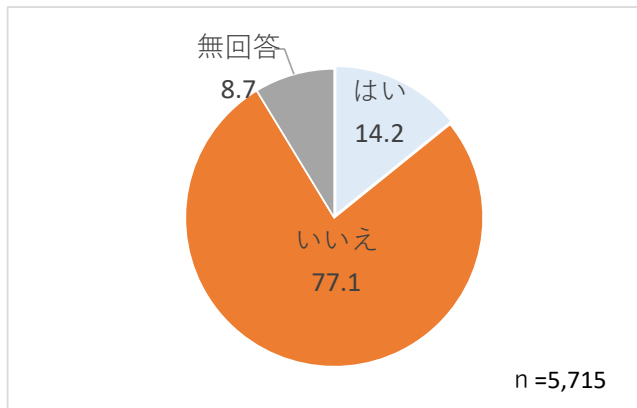


2) 普段の生活で介護・介助が必要か

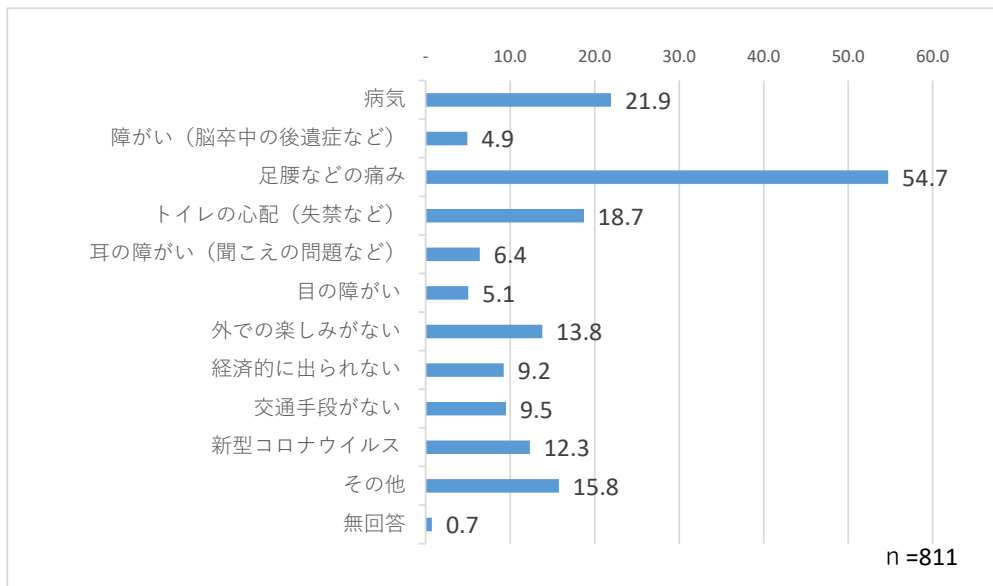


(3) 日常生活(外出)について

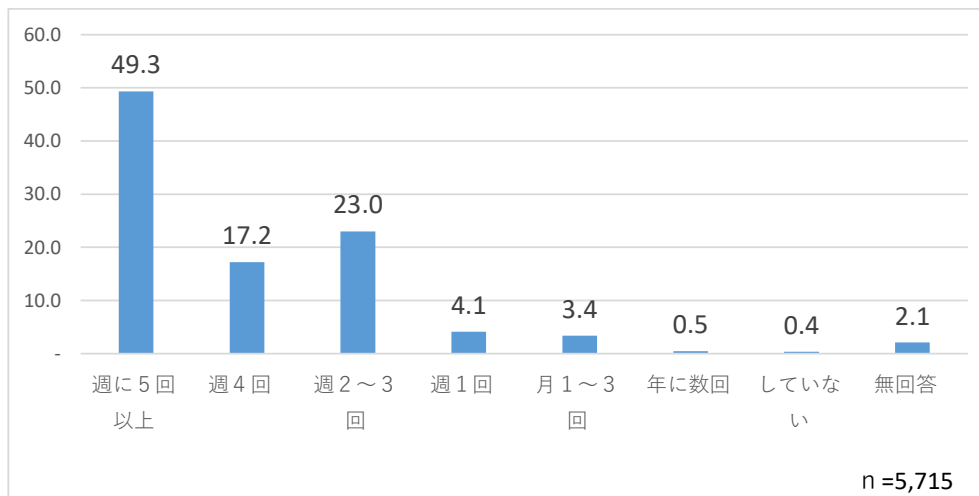
1) 外出を控えているか



2) 1)で「はい」と回答した方の外出を控えている理由

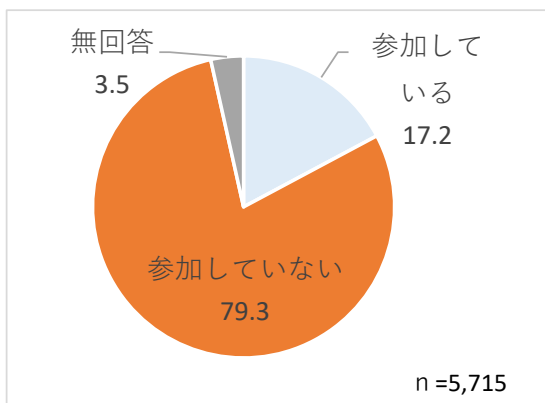


3) 外出している頻度

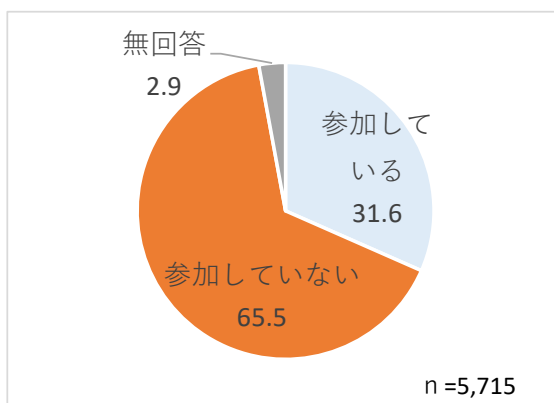


(4) 日常生活(グループ等の活動)について

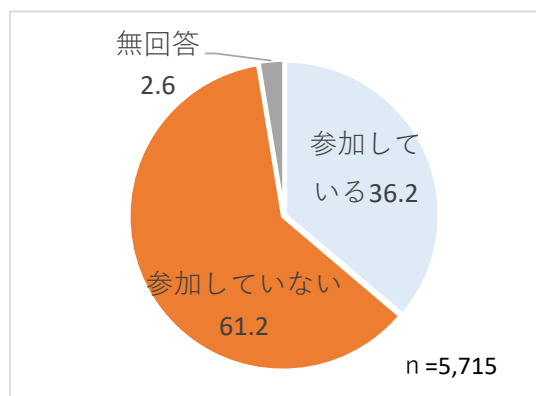
1) ボランティアのグループ



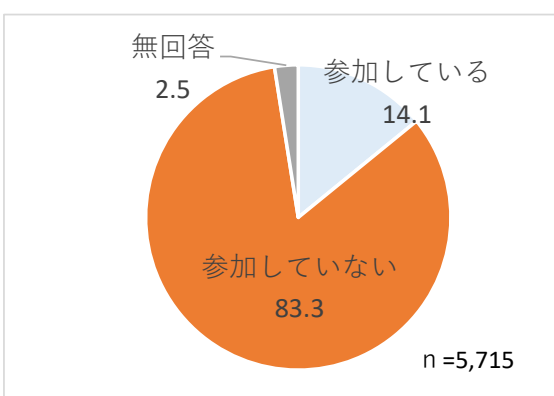
2) スポーツ関係のグループ



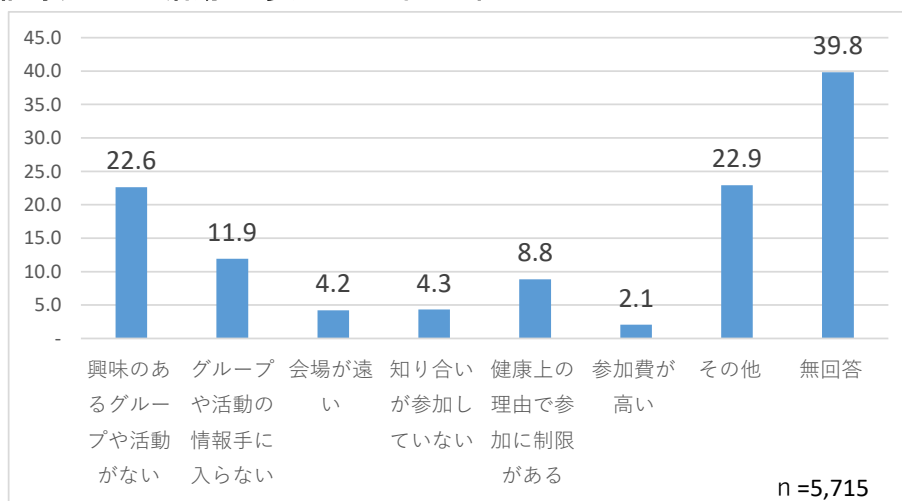
3) 趣味関係のグループ



4) 健康体操やサロンなどの介護予防のための通いの場



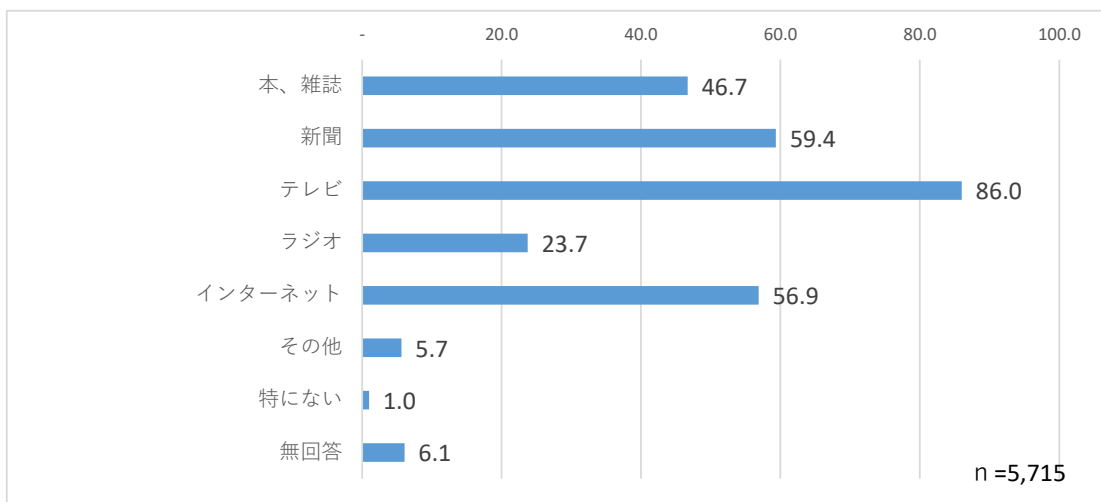
5) 上記等グループ活動*に参加していない理由



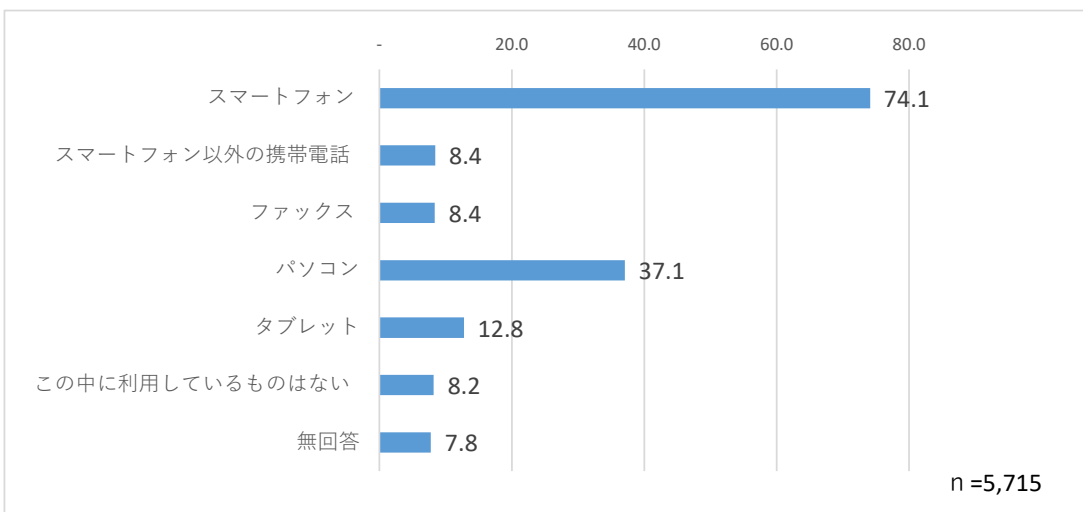
*上記等グループ活動とは、健康とくらしの調査コア項目問5(1)～(9)の9項目活動(ボランティア、スポーツ関係、趣味関係、老人クラブ、町内会自治会、学習・教育サークル、健康体操やサロンなどの介護予防のための通いの場、特技や経験を他者に伝える活動、子ども食堂)

(5) 日常生活(情報ツール)について

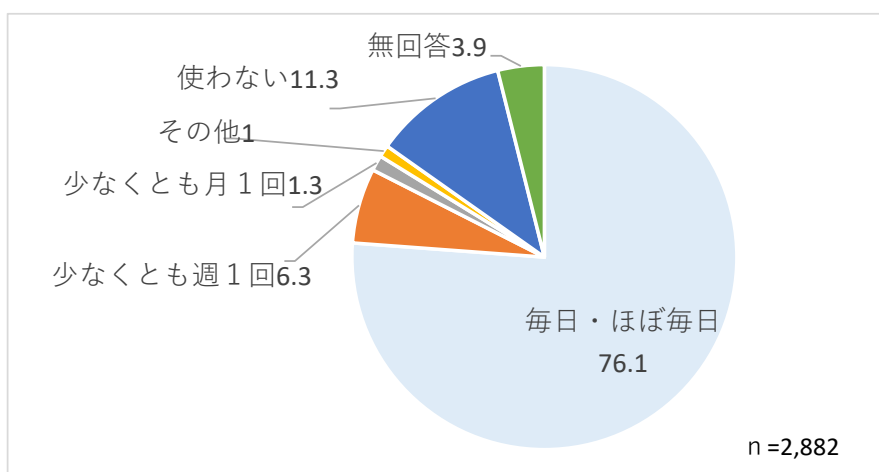
1) 情報を得るために使用しているもの



2) 普段利用している情報機器

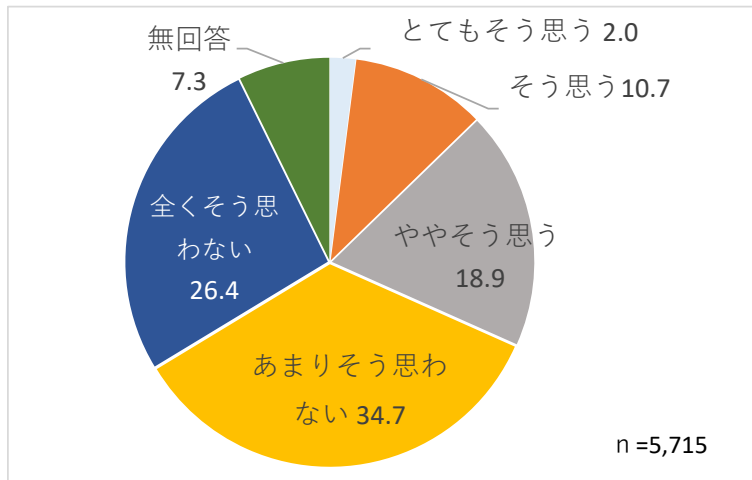


3) スマートフォンやパソコンの使用状況

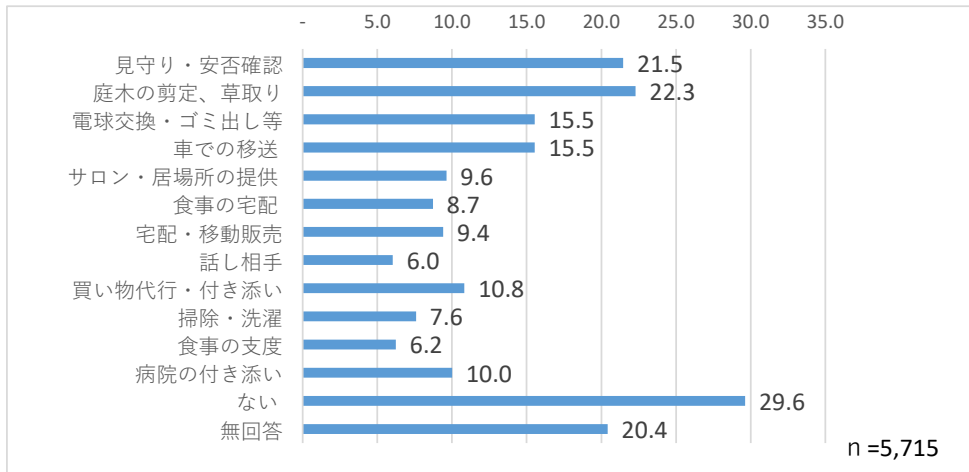


(6) 住んでいる地域 について

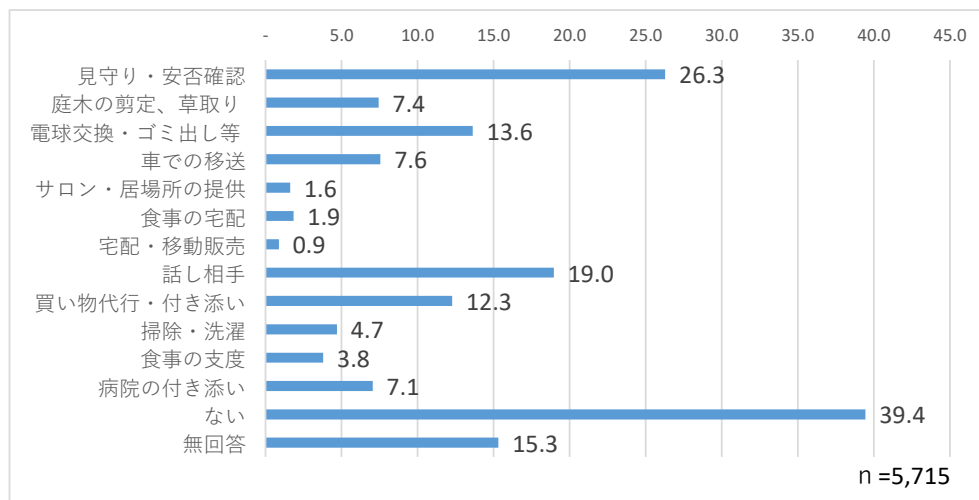
1) 地域の人から役割を期待されたり、頼りにされたりしていると思うか



2) 住んでいる地域にあつたら良いと思う支援

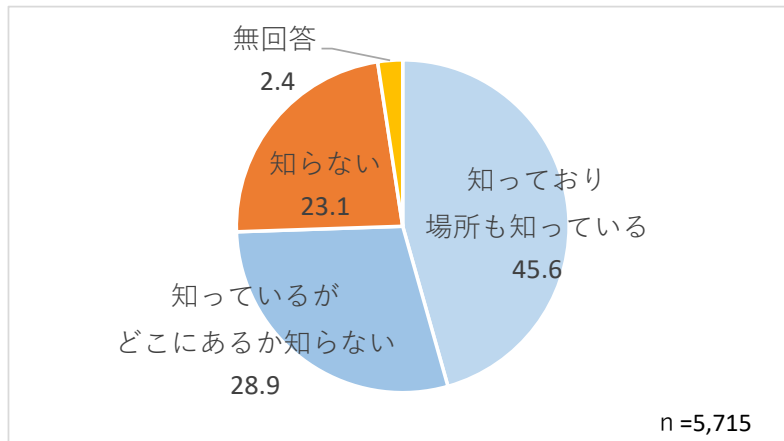


3) 困っている人がいたら引き受けても良いと思う支援

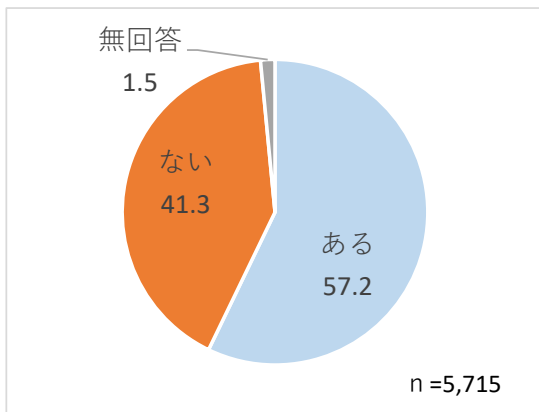


(7) 認知度 について

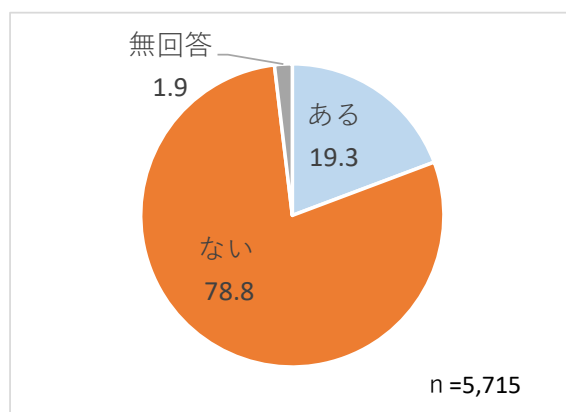
1) 高齢者支援センターを知っているか



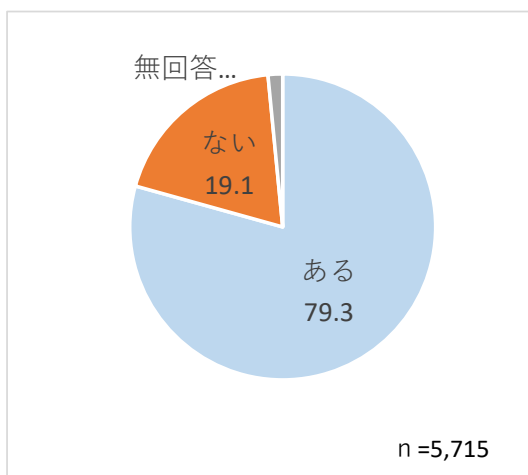
2) 「フレイル」という言葉を聞いたことがあるか



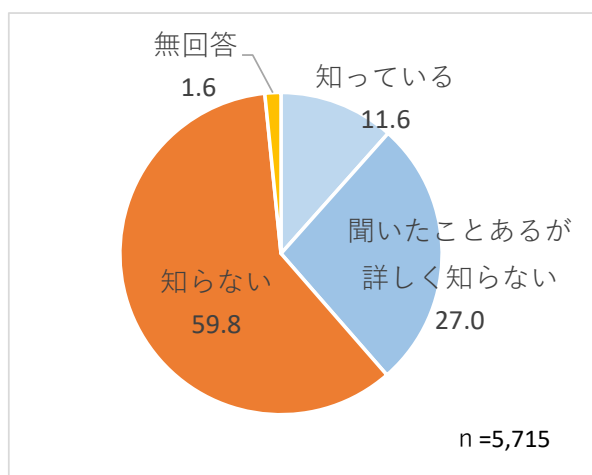
3) 「ヒアリングフレイル」という言葉を聞いたことがあるか



4) 「高齢者虐待」という言葉を聞いたことがあるか

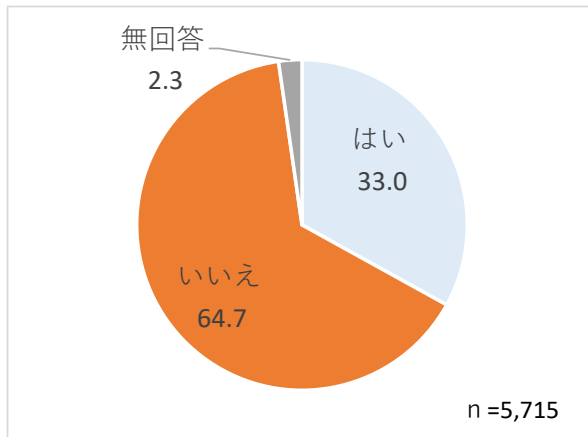


5) 高齢者虐待の相談先を知っているか

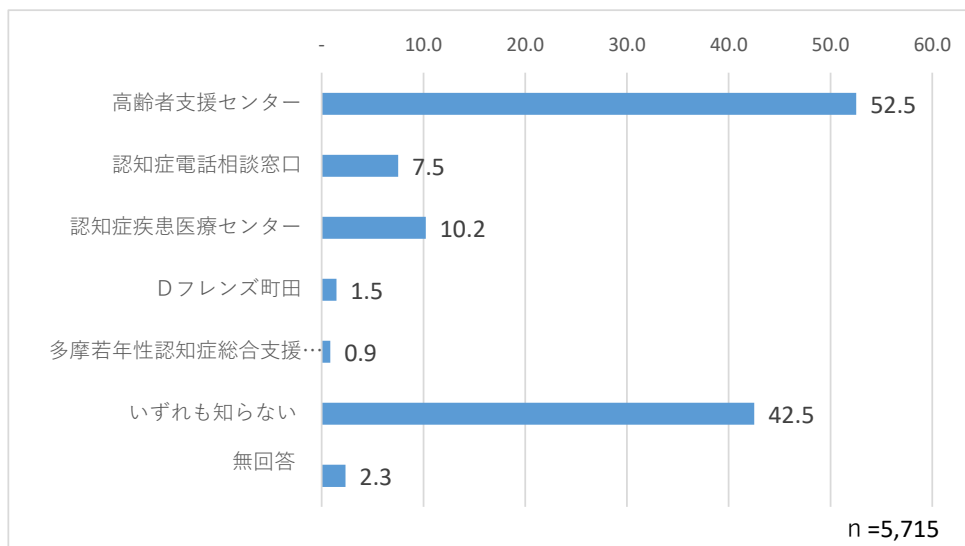


(8) 認知症 について

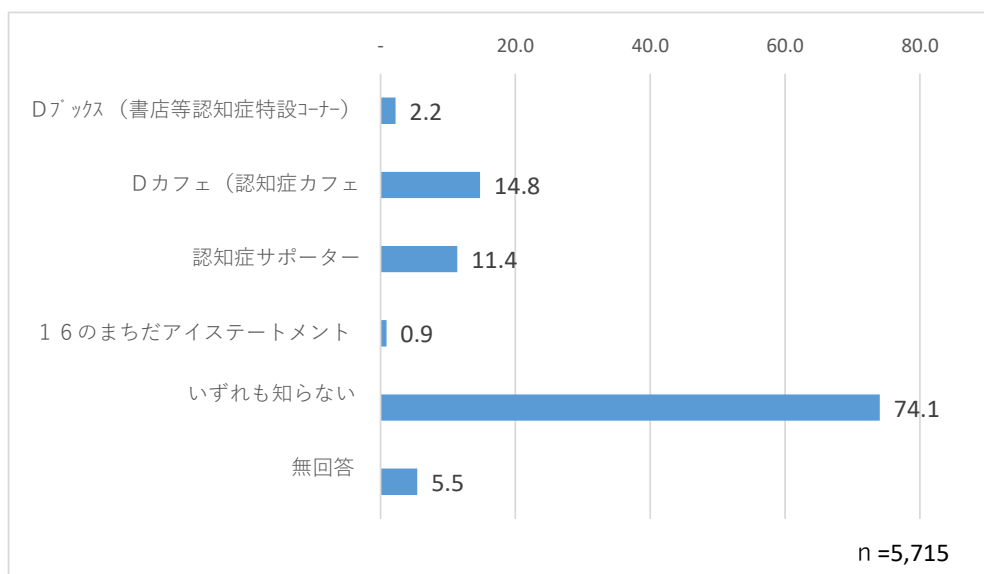
1) 認知症の相談窓口を知っているか



2) 具体的な相談窓口

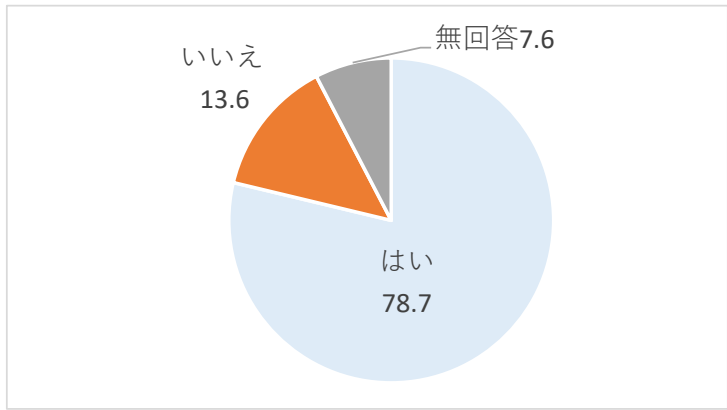


3) 認知症に関する取り組みへの認知度



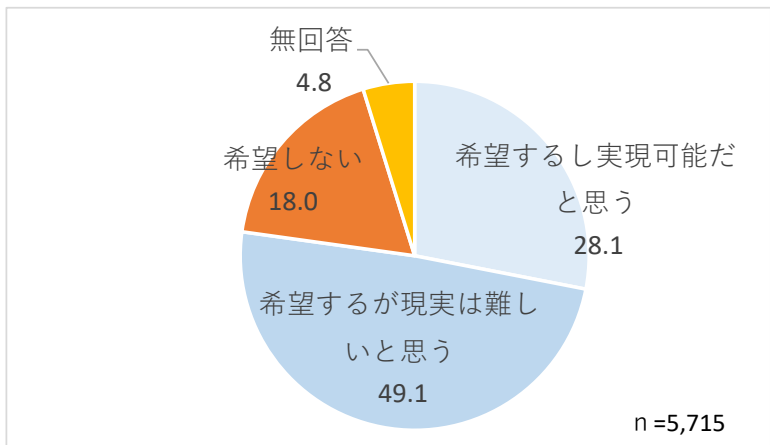
(9) かかりつけ医 について

1) 体調が悪い時や健康について相談したい時、いつも受診する医療機関があるか

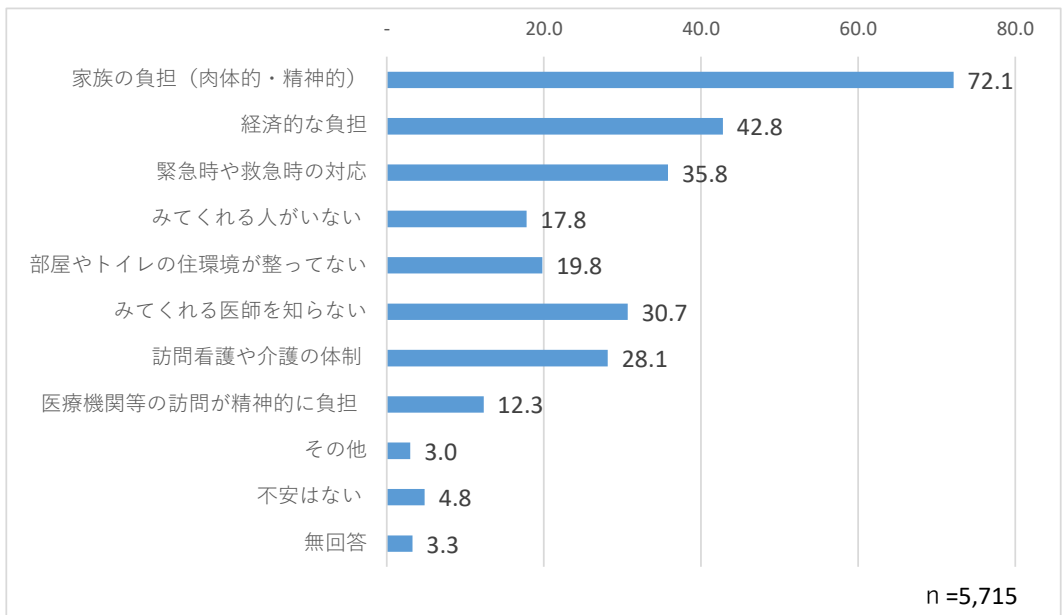


(10) 在宅療養 について

1) 在宅療養希望の有無



2) 在宅療養について不安に感じること



(11) 結果まとめ

【健康状態について】

- ・約82%の方が健康状態はよいと回答している。前回調査に比べ5.7ポイント増加している。

【日常生活について】

<外出>

- ・外出を控えていると回答した方は約14%で、前回調査に比べ21.8ポイント減少している。
- ・外出を控える主な理由は、「足腰などの痛み」、次いで「病気」が多い。前回調査で多かった新型コロナウイルスは12.3%と58.7ポイント減少している。
- ・約49%の方が週に5日以上外出している。

<グループ等の活動>

- ・約17%の方がボランティアの活動をしている。同様にスポーツ関係のグループに参加している方は約32%。趣味関係のグループは約36%、健康体操やサロン等の通いの場は約14%となっている。
- ・グループに参加しない主な理由は、「興味のあるグループや活動がない」「グループや活動の情報が手に入らない」「健康上の理由による制限」である。

<情報ツール>

- ・情報を得るために使用しているもの上位3つは、「テレビ」「新聞」「インターネット」である。前回調査と比較すると、テレビの割合はほとんど変化はないが、新聞については、7.1ポイント減少し、インターネットは13.3ポイント上昇している。
- ・日常的に利用している情報機器は、スマートフォンと回答する割合が約74%であり、前回調査よりも15ポイント上昇している。
- ・スマートフォンやパソコン使用状況は、約76%の方が「毎日・ほぼ毎日」使用している。

【住んでいる地域について】

- ・約32%の方が、地域の人から役割を期待されたり、頼りにされたりしていると思っている。
- ・地域にあったら良いと思う支援の上位3つは、「庭木の剪定、草取り」、「見守り・安否確認」、「電球交換・ゴミ出し等」、同率で「車での移送」である。
- ・困っている人がいたら引き受けても良いと思う支援の上位3つは、「見守り・安否確認」「話し相手」「電球交換・ゴミ出し等」となっている。比較的ニースの高かった「庭木の剪定、草取り」は、引き受けてもよいと回答する割合は減り、話し相手等の比較的軽度な作業ならば引き受けてもよいという傾向がある。

【認知度について】

- ・約75%の方が、高齢者支援センターを知っている。
- ・約57%の方が、「フレイル」という言葉を聞いたことがある。前回調査と比較すると18.7ポイント増加している。「ヒアリングフレイル」については約19%とまだ低い。
- ・約79%の方が、「高齢者虐待」という言葉を聞いたことがある。一方、相談窓口まで知っている・聞いたことがある割合は約39%に留まるが、前回調査と比較すると10.7ポイント増加している。

【認知症について】

- ・約33%の方が認知症の相談窓口を知っているが、知らない方も約65%と多い。前回調査と比較すると、知っている人は2ポイント増えている。
- ・具体的な相談窓口として、約53%が高齢者支援センターをあげている。
- ・約74%の方が認知症に関する市の取り組みを知らない。

【かかりつけ医について】

- ・約79%の方が、いつも受診する医療機関がある。

【在宅療養について】

- ・約77%の方が、在宅療養を希望している。前回調査と比較すると、希望するし実現可能だと思う方は3.6ポイント減少し、希望するが実現は難しいと思うかたは6.1ポイント上昇した。
- ・在宅療養で不安に感じる事上位3つは、「家族の負担」「経済的な負担」「緊急時や救急時の対応」である。